

ちばに心を寄せて次代に善きバトンを渡そう！



第530号

発行所

天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南8条西11丁目
電話 011(561)-1148
FAX 011(561)-1190
E-mail: kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

第96回教区記念祭執行

「節に出会った時こそ、
教会や地域のつながりが大事」



過去に例を見ない台風の通過、接近が相次ぎ、8月30日から豪雨災害が全道各地で発生。

一方、教務支庁では、9月2日の記念祭を前にして、1日、支部長会議、教区功労者合祀祭、慰霊祭、続いて、記念講演の井筒先生もご到着なされた。しかし、災害現場の状態は刻々と変化する状況であった。1日夜、奥村教区災救援長が南富良野町の視察を終えて帰庁。災害対策委員会が開かれ、南富良野町幾寅分教会を拠点に出動が決まり、9月2

天理教基礎講座 北海道会場 開催案内

- ※天理教についてお話をビデオを通して分かりやすく説明する講座です。
- 10月10日 教務支庁会場
- 11月6日 教務支庁会場 本部講師 弘長 健
- 道友社さすな新書「万事機嫌よく」著者(周東大教会長)
- 12月4日 教務支庁会場

日、記念祭の朝を迎えた。

台風一過、晴れ渡ったこの日は、湿った暖かい風を伴っていた。9時半おつとめ奉仕員が記念写真に収まり、次いで奏楽の下、開扉、献饌。教区長の祭文奏上では、

「年祭後の今、人材育成の上に一手一つに教区活動を推し進めていく」と述べ、座りづとめ、12下りのておどりに掛かった。大型の扇風機でも、館内の熱気は抜けず、参拝者も汗を拭きながらみかぐらうたに唱和した。

挨拶に立った教区長は「洪水の被害が出た南富良野町に、隣支部隊による災救援先遣隊が、まず出動します」と話した。その矢先から着替えを済ませ、現場に急行した隊員もいた。

続く記念講演では、本部布教部長・芦津大教会長の井筒梅夫先生は、真実の詰まったお話の中で、ご自身の体験を交えながら聴衆に、年祭後の進む道をはっきりと示された。
(要旨は2、3ページに掲載)

台風被害、各地で災救援出動

泥沼の街で、町民の信頼を得た青いヘルメット

先遣隊の南富良野町到着後、空知川は濁流のまま勢いが衰えていなかった。自衛隊、ボランティアが入った



南富良野町

た後でも、泥水に浸かった家財道具、日用品、そして床の泥さえ出せないでいた被災者。青いヘルメットの災救援員は、進んで泥水と格闘し、打ちひしがれた町民の心に、明かりを点けて回った。福祉センターには広い地下室もあり汚泥除去には、機

難作業になった。

宿泊場所となった幾寅分教会長は、「ひどいところにひのきしんに来て頂き、お礼を申し上げます。災害は大変だが、町民の方と素晴らしいつながりができた。ありがたい」と。また南富良野町長も「皆さんの真実にお礼を申し上げる」と涙を流してみんなと握手をしていた。



釧路市

詳細については次号にゆずるが、報告だけ掲載します。(次ページ上)

*南富良野町台風被害、
 教区先遣隊
 9月2～3日、49名。
 教区本隊
 9月4日～6日、71名

●その他の地域でも、支部隊単
 位で出勤があった。以下、報
 告。

*十勝・新得町台風被害、
 十勝支部隊
 一次隊・7～8日、7名

二次隊・13～15日、19名。
 *釧路市台風被害、
 釧路支部隊
 14～15日、延べ10名。

※また、台風襲来直前に平時訓
 練を開催。8月29～31日(31日
 未明に撤収)79名参加。
 岩内町国際スキー場、草刈及
 び雑木伐採。

皆さんのお力添えにお礼申し
 上げ、報告とします。



記念講演 抜粋
本部布教部長・井筒梅夫先生
140年祭に向けて
次代の道を担う
人材の育成を

別席者と後継者の丹精

教祖130年祭当日の神殿講話
 で、真柱様が「只今おつとめを
 滞りなくつとめ終えまして、一
 つ何か区切りがついたような気
 持ちがしている」と仰せになり
 ました。つまり、教祖の年祭を一
 つの区切りとして、この日を起
 点に次の成人の塚である教祖140
 年祭に向かつての歩みが踏み出
 されたのであります。そして「今
 日までの動きが途切れてしまう
 ことのないように今後の活動に

生かしていくことが肝心かと思
 う」と仰せられたように、年祭
 活動で培ってきたおたすけ心と
 か勇んだ動きを、まずは継続さ
 せていくという事、殊に年祭活
 動仕上げる年は、『別席場をいっ
 ぱいに』を合い言
 葉として、全教が
 にをいがけ、おた
 すけに励まされてい
 ただきました。



そこで今日は、別
 席者の丹精という
 ことから話を起こ
 していきたいと思
 います。このお道の教えは、世
 界一列をたすけるために天降つ
 た、親神様の思召しに應えて、世
 界中の人々を余すこと無くたす
 け上げる、実に壮大な御教えで
 あります。その実現に向けて世

世界の中の人々といえは、今74
 億人います。ですから陽気ぐら
 しの世界を実現する為の世界た
 すけを進めてい
 くためには、私
 達と共に人だす
 けをしてくれる
 ようほくがもつ
 と大勢必要であ
 ります。



教区青年会「布教合宿」開催
「ならん理」を大切に
「なる理」を楽しみに

谷澤茂男・本芝房分教会長をお招きして二日間に亘って教会の
 おたすけ活動についてお話頂いた。又20日午前中には、余市支部
 でも同先生をお招きし「第三回おたすけ勉強会」を実施した。

青年会「布教合宿」は、20日
 夕刻集合。その夜と21日朝お話
 を頂き、にをいがけドリルを実
 施、その後をいがけ実動に出
 かけ午後2時に解散した。

講師には、この4月に2千90
 名の年祭御礼団参を行った谷澤
 先生をお招きし、『夫婦仲第一』
 を信仰信条に掲げる教会の布教
 活動についてお話頂いた。

その結果、年祭活動では、な
 らん理は部内教会を含めて100万
 軒をまわり、なる理は、初参拝
 者3千547名、初席者は、470名御
 守護頂いた。

昨年『青年会・女子青年合
 同総会』で、「子供の頃に、に
 をいがけに行つたことのある人
 は？」と尋ねたところ、ほとん
 どの人が手を挙げた。それは、両
 親や祖父母と一緒ににをいがけ
 に歩いたその「ならん理」が子
 供達の信仰に繋がっているのだ
 と思う」と。

また『夫婦仲第一』で通る上
 に大切な角目として、「夫婦仲
 良くする事も大事だが、仲違い

神様の世界たすけの思召しにまともにお応えすることになるのでありますから、どうかこれからも一人でも多くの人をおぢばへお連れ帰りできるように、益々勇んでおつとめいただきたいと存じます。

又、年祭のお言葉の中で真柱様は「次代の道を担っていく人材の育成」ということも仰せ下さいました。すなわち、教会長・ようぼく・信者の子弟の育成ということでもあります。

そこで『後継者講習会』が先月27日に発表されました。この講習会は、具体的に言えば、140年祭に思いきり働いてくれるような人材を育てていくということが大きな目的であります。始まるのは来年の8月、もう1年後です。対象者に漏れること無く声をかけていただきたい、お勧め下さいませ。

すように、重ねてお願い申し上げます。
教祖にお喜びいただける教会に
教祖は50年のひながたで、直接何人の人をたすけられたでしょうか。正確な記録はございませんが、これを推測できる資



料が本部に残っています。

慶応3年のわずか36日間の記録であります。この間に教祖のもとに参つておられる方が、延べ2千174名であります。その中でおたすけを願つておられる方が千190名です、これを単純計算すると1年間で2万2千人が帰参され1万2千人を教祖がおたすけなさっているんです。ところが、その数万人の中で、今お道を信仰している家は、ほんの数軒、一握りなんです。でも教祖からたすけていただけて有り難い、この御恩は忘れん、生涯この御恩に伝えて通らせていた

だくと、堅い御恩報じの心定めをされた方々が、この残つた一握りが今のお道の基礎を築いたんです。またこれは、それぞれの教会の

元一日においても同じでしょう。今一度私達の信仰の元一日を思い返して、一にも二にも教祖がお喜び下さるからつとめさせて頂くんだという、信仰の基本に立ち返つて、ようぼくとしての御用にお勇みいただきたい

のであります。

ふしを頂いた時にこそ、御守護や親心というものは感じやすいしわかりやすいと思います。身上を頂いた時や困難なとき、心温まるおさとしとか助言は本当に身に沁みますし、そこで悟れたことは生涯忘れることはありません。思いもよらないふしに出会つたときに、一人で悩み苦しむ事ほどつらいことはありません。そうした時のために教会があるんです。

教えの有り難さを聞かせても来れる、陽気ぐらしが味わる。これが教会の本来の姿であり、教友が集う場所の雰囲気でありましょう。どうかお互い、教えを確り身につけて、会話の端々に親神様の御守護や、教祖のひながたの話が出てくるように心がけて努力をして頂きたいのであります。

有用な人材は教会で育つんです。教友が集まり、教友同士が励まし合い切磋琢磨するところに人が育ちます。これから将来にかけて、御恩報じに勇んでつとめることのできるようぼくが育つ教会を、又、地域の動きを目指して頂きたいと思ひます。

しても、それをおさめることが大切で、あわないう者同士でも、にをいがけ・おたすけをしていくと、自分自身の心が変わりおさめていただけるものだ」とお話し頂いた。(要旨抜粋)

参加者は熱心に先生の話に聞き入り、にをいがけの実動も実施し、決意を新たに散会した。
参加者37名
余市支部「第三回おたすけ勉強会」
参加者48名

緑化ひのきしん

9月3日、台風一過の晴れ空の下、青年会では31年目となる緑化ひのきしんを洞爺湖町で実施した。本年は開催日の選定が非常に難しく、さらには直前で台風による自然災害が道内各地で発生し、開催自体も危ぶまれていた。その中で町役場より、「洞爺湖町も台風被害により対策本部が置かれ、対応に追われている。天理教さんの方で無理がなければ、通常業務の草刈りを



余市支部第三回おたすけ勉強会



行つていただけると助かります。」と聞かされ、実施を決定した。当日は青年会員を中心に、35名の参加を頂き、機械と手鎌で桜公園の草刈り作業を行った他、十数年前に御本部の中田善亮先生に御植樹頂いた木を、役場職員の方の協力を得て、より安全な場所へ移植させて頂いた。参加した会員からは、また来年も来たいとの声もあり、これからも大切にこの行事を継続していきたいと改めて感じた。

女子青年層の育成と活動の集大成 第28回女子青年大会始まる

数年に一度開催されている女子青年大会が、年祭の年に今回は道内各地で開催される。その



先陣を切って9月4日教務支庁を会場に開催された。

ゲームを交えウォーミングアップをした後、感話DVDを鑑賞。その後グループごとにグループワークを実施。最後に婦人会長様からのお言葉を、婦人会主任の代読により拝聴し、今後の活動を紹介し散会となった。参加会員 90名、担当者92名



9月18日には網走会場でも開催。今後4会場での開催にも大勢参加者を御守護頂けるよう声がけをさせて頂きましよう。

「道の学生ひのきしんDAY」

北海道教区学生会では9月19日に「道の学生ひのきしんDAY」をブロックごとに開催した。札幌地区では教務支庁で開催し、30名が参加した。

各地の内容としては、浜辺のゴミ拾い、施設や教会内の清掃ひのきしんなど。ひのきしんの後にはB B Qやカレーなどを皆で食べて懇親を深めた。

ブロックによっては雨が降ったところもあったが、皆笑顔で楽しくひのきしんする事ができ、ひのきしんを通して日頃の感謝や喜びを分かち合った。

次の行事は12月に第32回おつとめ総会を開催予定。今回参加してくれた会員さんだけでなく、まだ未参加の会員さんの参加もぜひお待ちしております。

けいじばん

◎法律に関する諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。

◎毎月26日に本部月次祭選拜式をおこなっております。どうぞご参拝下さい。

◎手話・点字講習会 毎月1日、教務支庁にて午後

6時から8時まで行います。 ※雅楽練習会も併行して開催しています。(三布連)

訃報

- ・武田ミサオ様 8月12日出直 (78歳) 岩泊分教会前会長夫人 (俱知安支部)
- ・堀 輝夫様 8月28日出直 (81歳) 統洲分教会会長 (渡島支部)
- ・瀧内 芳江様 9月1日出直 (68歳) 豊平分教会会長夫人 (札幌白豊支部)

北海道教務支庁日誌抄

(8月19日～9月19日)

- 8月20～21日 青年会 布教合宿
 - 26日 本部月次祭選拜式
 - 29日 図書修理会
 - 30日 布教の家北海道寮 寮祭
 - 31日 婦人会 Bブロック 母親講座
 - 9月 1日 たすけ推進会議 支部長会議
 - 2日 第96回教務支庁記念祭
 - 4日 第28回女子青年大会 教務支庁会場
 - 10日 道の教職員の集い
 - 11日 本部・布教一課長 布教の家視察
 - 19日 学生会 道の学生 ひのきしんデー
- 教区報編集会議

■福祉おつとめ総会

- ・日時 11月3日(木・祝日) 於教務支庁 午前10時よりおつとめ
- ・記念講演 前修養科主任 中山慶純先生
- ・福祉関係者に限らずどなたでも大勢ご参拝下さい。

※おつとめ着をつけての参拝も歓迎します。 記念講演もどうぞ多数お越し下さい。

■「依存症のおたすけ」 (ひのきしんスクール)

「薬物」「アルコール」「ギャンブル」「買い物」「ネット」「携帯」etc. 依存症は家族をも巻き込んでいく恐ろしい病気です。

- ・日時 11月6日9時～16時
- ・会場 特別養護老人ホーム「幸成園」 函館市桔梗町435-28